



「御霊神社（鎌倉権五郎神社）の面掛行列」という案内板の写し

鎌倉湘南地方の開拓の祖、鎌倉権五郎景政公をお祀りする御霊神社は鎮座9百年の坂ノ下の鎮守です。景政公のご命日に当たる9月18日の例大祭は神輿(おわ)渡御(たり)に面掛衆が行列することで知られています。「おわたり」は行列奉行の采配のもと金棒 御榊 御鉾 白幡等を持った氏子達、宝刀 弓矢 杵等の御神宝さらに神職 伶人 総代役員達が神輿のお供をする総勢百名を越える行列です。古代のままの肅々とした風雅な行列に鎌倉囃子 先祓いの天狗そして面掛行列が加わり華やかさを添えます。面掛行列は神奈川県内はもちろん全国的に希少となった「仮面風流」を今に伝える文化遺産として県の無形文化財に指定されています。面は十面あり坂ノ下に伝わる呼び名は次の通りです。

一番面「爺」 二番面「鬼」 三番面「異形」 四番面「鼻長」 五番面「烏天狗」 六番面「翁」 七番面「火吹男」 八番面「福祿寿」 九番面「阿(お)亀(かめ)」 十番面「女(とりあげ)」

これらの面は奈良時代仏教布教の為日本全土の大寺院で盛んに上演された「伎楽」と呼ばれる仮面劇の面を曾型としています。

中略

御霊神社の面掛行列は鶴岡八幡宮で古くより行われていた祭礼の行列に倣って始められました。明治以後八幡宮では面掛行列を行わなくなった為、現在この種の行列は御霊神社が伝えるのみとなりました。一戸一役と言われる坂ノ下の氏子総出の協力体制と住民一人ひとりに引き継がれた感謝と祈りの心がこの祭礼行事を今日まで継続させてるのです。 御霊神社

由比ヶ浜

都市の外部との境界「あの世」との境界



由比ヶ浜南遺跡から分かる由比ヶ浜の姿
皮革製造の痕跡 極楽寺との関連が考えられる建物跡
人骨・獣骨の埋葬遺跡
埋葬地
であるとともに動物の解体から細工等の作業跡と推測される。

鶴岡八幡宮

